

【検討単語】 2017年 第1回		【結果の記入方法】 創作手話…◎ 合成手話…○ 組み合わせ…● アレンジ…ア 保存手話…保 ラベル追加…△ 検討不可…×					
単語	意味付け	参考単語	各案	結果	表現の仕方	本委員会 結果	検討経緯
1	海水魚 一生、あるいは一生の大半を海水域で生活する魚類の総称。アジ・マグロ・タイ・ボラなど。		北海道 ● <海>→<魚> 東北 ● 「海」+「魚」 関東 ● 両手で「海」の手話+「魚」 北信越 ● 海+魚 東海 ● 海+魚 近畿 ● 「海」の下に「魚」 中国 四国 ○ 左手で波 右手で魚 九州 ● 左手手話「海」+ 右手手話「魚」			● 組み合わせ	ひとまとめにして検討。 それぞれ区別がしやすいようにしたい。 →単純に組み合わせた表現でも、区別がしやすく分かりやすい。 海水魚⇒<海>+<魚> ※北海道班・東北班・北信越班・東海班・四国班の案を採用 淡水魚⇒<水A>+<魚> ※東北班の案を採用 深海魚⇒<深海水>の1動作目+<魚> ※北海道班・東北班・北信越班・東海班の案を採用
2	淡水魚 川や湖沼など、塩分をほとんど含まない淡水にすむ魚類。世界には1万種を超える淡水魚がいるといわれ、主なものにコイ、フナ、メダカ、ナマズ、ドジョウなどがある。		北海道 ○ <左>沼>+<右>魚> 東北 ● 「水」+「魚」 関東 ● 右手3指で「川・流れ」の手話+「湖」+「魚」 北信越 ● 湖+魚 東海 ● 川+魚 近畿 ● 「池」の横に「魚」 中国 四国 ○ 左手で川 右手で魚 九州 ● 左手手話「水」+右手手話「魚」				
3	深海魚 大陸棚より沖合いの、水深 200m以深の海中または海底に生息する魚類の総称。巨大な水圧、暗黒、恒常的な低温、水の流動の少ないことなどのために、骨格や筋肉が軟弱、目や発光器の発達、または目の退化、口や胃が大きいなどの特徴が著しい。主にハダカイワシ・チョウチンアンコウなど。		北海道 ● <深い>→<魚> 東北 ● 「深い」+「魚」 関東 ● 左手指先を右。掌下で水平に置く（「海」）。そこから「深い」+下の「魚」 北信越 ● 深い+魚 東海 ● 深い+魚 近畿 ● 「海」の深い下のところに「魚」 中国 四国 ○ 左手で波 右手で魚 を深いところで表現 九州 ● 左手手話「海」+ 右手手話「魚」 を斜め下方へ動かす				
4	ホヤ(海鞘) 尾索綱ホヤ目の原素動物の総称。海産で汽水にも生息し、単体、または群体をつくる。単体のものは球形ないし卵形で、着や海綿に固着、体は被囊(ひのう)で覆われ、入水孔と出水孔とが開口。幼生はオタマジャクシ形をし、尾部に背索(せきさく)をもち、自由に泳ぐ。マボヤ・アカボヤなどは食用。 [補説] その形状から「海のハイナツプル」と比喩的に言われている。		北海道 ◎ 左(岩を表す)+右(海鞘の形)を2回移動しながら左手につける参考:<魚> 東北 ◎ 左手で指文字「ほ」右手で指文字「や」を合体 関東 ◎ 「赤」+軽く丸めた両手の手首同士と指先同士を付ける 北信越 ◎ 指文字の「ヤ」+貝 東海 ◎ 指文字「ほ」、指先でぶつぶつを表す 近畿 ● 指文字「ほ」「や」の組み合わせ 中国 四国 ◎ /ホ/ と /ヤ/ を合わせる 九州 指文字「ほ」+「や」九州ではなじみがない。			指文字	これは無理に特性から表現を考えても、逆に分かりにくくなる。 →「ホヤ」は2文字なので、指文字の方が表現しやすい。 ⇒指文字<ホ>+<ヤ> ※近畿班・四国班・九州班の案を採用
5	メダカ ダツ目 メダカ科(アドリアニクス科)に属する魚であるミナメダカと、キタメダカの2種の総称。体長 3.5 cm 程度。かつて日本の小川には野生のメダカが群れをなし泳いでいたが、近年は生活排水などの環境の悪化や外来種の影響などにより数が激減してしまい、絶滅危惧Ⅲ類(VU)に認定された。		北海道 ◎ 右<め>の輪を小さく窄めく魚>の動き参考:金魚(北海道の手話) 東北 ● 指文字「め」+「魚」 関東 ○ 指文字「め」を立て、前後に指先を振りながら右へ進める。 北信越 ● 眼+魚 東海 ● 指文字「め」、小指で魚を表す 近畿 ア 片手で小さい+「魚」 中国 四国 ◎ 目を指さして /魚/ を表現する 九州 ● 左手指文字「め」 右手人差し指のみを伸ばして前へ。			○ 合成	小さい魚であり、<じゃこ>のように群れて泳ぐ習性も見られる。 →指文字<め>は、人差し指と親指で丸を作るが、<小さい>の表現にも近くなっている。 ⇒指文字<め>+<魚>を小刻みに動かす。
6	ブリ(鰯) スズキ目アジ科に分類される海水魚の一種。北西太平洋に生息する回遊性の大型肉食魚である。日本では重要な食用魚であり、各地の文化や産業に深く関わる。出世魚と言って、成長するに従って呼び方が変わる。35cm以下のものをツバス(関東でワカシ)、35cm~60cmのものをハマチ(関東でイナダ)、60cm~80cmのものをメジロ(関東でワラサ)、80cm以上のものをブリと呼んでいる。		北海道 ア 左<魚>+右<3>→右手で左手をなぞる鰯の鱗(3色)を表す 東北 ● 指文字「ぶ」+「魚」 関東 ◎ 小指を下にして立てた右手の掌を相手に向け、左手人差し指で掌の指先から手首に向けて動かす 北信越 ● 出世(上がる)+魚 東海 ◎ 黄色、左手の甲に、横に線を引く(黄色い線がある) 近畿 ● 「黄色」+「鱗」+「魚」 中国 四国 ◎ 左手で上がる様子(出世魚のイメージ) + 魚 九州 ● 左手指文字「ブ」 右手手話「魚」			○ 合成	鰯は一般的に良く知られている魚。 表現しやすさを考えると、模様や特性を捉えるより、漢字に合わせたほうが良い。 ⇒左手<魚>+右手<教える>
7	車海老 十脚目クルマエビ科に分類されるエビの一種。体長 25cmに達する。生時の体色は淡褐色ないし青灰色で、暗色の幅広い線が、頭胸甲では斜めに、腹部では横に走っている。腹部を曲げるとこの輪模様が車輪のように見えるのでその名がある。水深 100mまでの砂泥底にすき、夜間に餌を求めて活動する。北海道以南オーストラリア北部、インド洋からアフリカ東岸まで広く分布する。		北海道 ア 右<エビ>で勢い良く跳ねる様子を表す 東北 ◎ 左手「海老」を右手4指で縦に引く 関東 ◎ 左手2指をエビに見立てて体と平行に置き、その上で右手4指を手前に引く。+「エビ」 北信越 ● 輪(回る)+海老 東海 ● 左手で「エビ」を表し、右手で鱗を表す 近畿 ◎ 車海老が動く様子 中国 四国 ア 円を描き(車輪) / エビ 九州 ● 手話「車」+ 手話「エビ」				ひとまとめにして検討。 表現しやすさを考えると、模様や特性を捉えるより、漢字に合わせたほうが良い。 車海老⇒両手人差し指で両輪を表す+<海老A> ※北信越班・四国班の案を採用 伊勢海老⇒<宮>伊勢>+<海老A> ※東北班・関東班・九州班の案を採用
8	伊勢海老 イセエビ科に属するエビの1種。広義にはイセエビ科の数を指す。熱帯域の浅い海に生息する大型のエビで、日本では高級食材として扱われる。体長は通常20~30cmほどで、まれに40cmに達するものもある。重さは大きくなるのでkg単位になる。体型は大きい円筒形で、全身が暗赤色で棘だらけの頑丈な殻におおわれ、触角や歩脚もがっしりしている。		北海道 ◎ 両手(触角の形)→<エビ> 東北 ● 「伊勢」+「海老」 関東 ● 両手の指を組み合わせる(「伊勢」)+「エビ」 北信越 ● 尻(ひげ)+海老 東海 ○ 両手を鼻元から前方に突き出し、左右に後ろに広げる(ヒゲ)、エビ 近畿 ア 頭からつもの+「エビ」 中国 四国 ア 触覚 / エビ 九州 ● 手話「伊勢」+ 手話「エビ」			● 組み合わせ	白エビ⇒<白>+<海老A> ※北海道班・東北班・関東班・北信越班・東海班・近畿班・四国班・九州班の案を採用 甘エビ⇒<甘>+<海老A> ※北海道班・東北班・関東班・北信越班・東海班・四国班・九州班の案を採用
9	白エビ オキエビ科に属するエビの一種。サクラエビと同様深海に生息する小型種で、富山湾沿岸では食用に漁獲される。唯一漁場をもつ富山県では、一般に「白えび(シロエビ)」と呼ばれ、沿岸地域では「ヒラタエビ」と呼ぶこともある。体長50~80mmほどで、サクラエビよりも大きく、やや左右に平たい体型をしている。顔角はないが複眼の後ろに小さな棘があり、棘の上にも小さな棘がある。体色は黒色透明で僅かにピンクがかっているが、死ぬと乳白色になる。和名はこの体色に由来する。		北海道 ● <白>→<エビ> 東北 ● 「白」+「海老」 関東 ● 「白」+「エビ」 北信越 ● 白+海老 東海 ● 白+エビ 近畿 ● 「白」+「エビ」 中国 四国 ● 白 + エビ 九州 ● 手話「白」+ 手話「エビ」				標準手話の<海老>は海老が1回跳ねる表現だが、ろう者の間では2回跳ねる表現も見られるので、これを<海老B>とする。(従来の標準手話は<海老A>とする)
10	甘エビ 甘エビとも呼ばれていますが、正式名称はホッコクアカエビといい、新潟では色や形が赤唐辛子(両霞)に似ていることから「南蛮エビ」と呼ばれている。主に北陸以北の日本海で獲られており、南蛮エビの甘くとろけるような身は、甘みが強く、他のエビとは違った独特の食感があり、刺身や寿司ネタの定番となっている。一方、頭には凝縮された旨みが詰まっており、唐揚げや塩焼き、吸い物等で味わうことができる。どこも捨てるところのない食材。		北海道 ● <甘い>→<エビ> 東北 ● 「甘い」+「海老」 関東 ● 「甘い」+「エビ」 北信越 ● 甘い+海老 東海 ● 甘+エビ 近畿 ● 「黒」+「エビ」 中国 四国 ● 甘い + エビ 九州 ● 手話「甘い」+ 手話「エビ」				

11	イソギンチャク (蠟燭)	虫綱六放サンゴ亜綱イソギンチャク目に属する花虫類の総称。浅海の岩石などにへばりついている。体は円筒状、上端口盤部の中央に口があり、周囲に6の倍数の毒針(刺胞)を持ち触手を生やしている。	北海道 ◎ 左(岩を表す) + 右(イソギンチャクの形) → 右手を揺らす 参考: サング 東北 ○ 岩を構った左手の上に、開いた右手5指をつぼめる 関東 ◎ 指先を上に向け向い合せた両手の指をバラバラに揺らす。 北信越 ○ (きのこの形) + 片手に花の形で灯 東海 ◎ 握った左手の上に、右手で触手を表す 近畿 ◎ 海の中に花がゆれる様子 中国 四国 ○ 左手で波 右手で イソギンチャクが動いている様子 九州 ◎ 両手を内向きに合わせ五指を開いたり閉じたりする。	◎ 創作手話	海中に潜った時に、イソギンチャクを見てみると、ゆらゆらと揺れている。 → <サング>の表現を参考に、岩の上でゆらゆら揺れている表現にしたい。 ⇒ 左手<岩>の上で、右手五指をゆらゆらさせる。 ※北海道班の案を採用
12	シラス(白子)	カタクチイワシ・マイワシ・イカナゴ・ウナギ・アユ・ニシンなど、体に色素がなく白い稚魚の総称。これを塩ゆでにして干したものは、ちりめんじゃこ、白子干などと呼ばれる。	北海道 ◎ 両手<い>で白子が泳ぐ様子を表す 東北 ● 「白」 + 指文字「す」 関東 ◎ 「白」 + 右手人差し指を素早く揺らしながら前へ動かす 北信越 ● 両手で小さい+魚 東海 ● 白、小指で魚を表す 近畿 × 中国 四国 ● ちりめんじゃこ + 生 九州 ● 手話「白」 + 手話「小さい」	● 組み合わせ	<じゃこ>のように、集団で泳ぐ習性がある。 ⇒ <白> + <雑魚・じゃこ>
13	アンコウ(鮫鮪)	アンコウ目アンコウ科の海水魚。全長約1m。体は灰色または灰白色で、黒く線状の淡い斑紋がある。体は平たく、口は著しく大きい。背部前方に背びれの变形した誘因突起があり、これで小魚をおびき寄せて呑みこむ。見た目はグロテスクだが、鰻鱺などで食用にされ、ヒレ(トモ)、皮、エラ、肝臓、胃袋、ヌ(卵巣)、身(脚肉)はアンコウの7つ道具と呼ばれる。骨以外は捨てるところがない高級食材。	北海道 ア 左<魚> (口を開ける様子) + 右 (誘因突起の形) 東北 保 額叫人差指を前に降ろす 関東 ◎ 右手拳の甲を額に付け、開きながら前方に動かす。+「魚」 北信越 ◎ おでこに電気+魚 東海 ◎ おでこから線、右手を水平に進める 近畿 ア 頭の上から手で照らす様子+「魚」 中国 四国 ○ 魚 + 頭上にある「エスカ」(疑似餌)を表現 九州 ◎ 提灯アンコウの提灯の写像表現	◎ 創作手話	アンコウの特徴は、背部から生える誘因突起。 → 人差指を自分側に向けて突起を表したり、逆に相手側に向けて表したり、様々な表現がある。 → 最も表現しやすいのは、相手側に向ける表現。 → また、カレイやヒラメのように、海底に接着しながら泳ぐときがあるが、カレイやヒラメと違って体が厚い。 → 五指で「コ」の形を作り、上下に揺らしながら前に動く表現が適している。 ⇒ 相手側に向けた人差指を、額から前方下に弧を描くように下ろし、五指で「コ」の形を作り、上下に揺らしながら前に動く表現
14	ナマコ(海鼠)	棘皮動物の一種。ナマコ綱ナマコ目アカオニナマコ属に属する。 体型は円筒状で左右対称の無脊椎(せきつい)動物で、日本近海には約200種が生息する。浅海から深海に広く分布し、深海のものは体が寒天質になる。	北海道 ◎ <海> → 両手 (ナマコの形) 東北 保 口の右側から5指で構える 関東 ◎ 「柔らかい」を両手を左右に引きながら表し、胸幅くらいで少し下に置くように止める。 北信越 ◎ なまこの形 東海 ○ 左手で指文字「な」、右手で握りながら右に動かす 近畿 ア 海の中でゆっくり泳ぐ様子 中国 四国 ◎ 両手ともに /ナ/ 上下に動かしながら左右に離し/コ/ 九州 ◎ 提灯アンコウの提灯の写像表現	指文字	これといった特徴がなく、手話で表すのは困難。 良く知られている魚なので、指文字でも通じる。 ⇒ 指文字<ナ>+<マ>+<コ>
15	フナ(鰻)	コイ科フナ属の淡水魚の総称で、アジア・ヨーロッパなどの湖沼・河川に分布する。 全長約15~40cm。鱗にもっと大きくなる。コイに似るが口ひげを欠き、体高がやや大きく側扁する。体色は銀白色で、背は暗褐色を帯びる。 形態的特徴からキンブナ・ギンブナ(マブナ)・ゲンゴロウフナ(ヘラブナ)などに分かれる。	北海道 ア 左<魚>+右 (体の膨らみ) 東北 ● 指文字「ふ」 + 「魚」 関東 ◎ 軽く曲げて掌を前に向けた両手を額の横に置く+「魚」 北信越 ア 付き+魚 東海 ● 左手で「魚」、右手で「付く」 近畿 ● 「汚い」 + 「魚」 中国 四国 ● /沼/ + /魚/ 九州 保 右手親指と人差し指を口の上方で開く(佐賀の手話)	保 保存手話	様々な表現が見られるが、九州班からの提案は、佐賀県近郊で従来より使われる表現。 → フナの口形を良く捉えており、表現しやすい。 ⇒ 右手親指と人差し指を口のあたりでやや下方に開く ※九州班の案を採用。
16	ウツボ	ウナギ目ウツボ科の海水魚で、本州中部以南からフィリピンに分布する。 全長約80cm。体型は太いウナギ型。体色は黄褐色で、暗褐色の不規則形の横帯がある。口は大きく、歯は強大。沿岸の岩の間に住み、性質は凶暴で、はげしく噛みつため、「藩のキャンク」ともいわれている。	北海道 ◎ 右(ウツボの形) → 前に進み口で噛む様子 東北 ア 閉じた指先を前に向け、前に2~3回 関東 ◎ 右手3指を曲げて口に付け素早く前に出す(噛みつく様子)+「魚」の形で前に進める。 北信越 ア 「ウ」を蛇のように「岐阜」の形 東海 ◎ 右手で指文字「う」を左手で隠し、右手を前方に突き出し、噛む様子 近畿 ◎ 海から手を突き出して食べる様子 中国 四国 ◎ 口元で/ウ/ + 両手で噛む様子(両手とも二指) 九州 ◎ 右手人差し指と中指を曲げたまま、くねらせつつ前方へ。	◎ 創作手話	東海班の提案「右手で指文字<ウ>を左手で隠し、右手を前方に突き出し、噛む様子」 → この表現はウツボの特性を良く捉えており、分かりやすい。 → ただ、<スッポン>「右手で指文字<タ>を左手で隠し、右手を前方に突き出し、噛む様子」とよく似ており、紛らわしい。 → 一次点で特徴を良く捉えている表現は、九州班の「右手人差し指と中指を曲げたまま、くねらせつつ前方へ」 ⇒ 九州班の案「右手人差し指と中指を曲げたまま、くねらせつつ前方へ」を採用。 ※九州班の案を採用
17	上皇	天皇の譲位後の尊称。太上(たじょう)天皇。おりのみかど。	北海道 ア <退位> → 右手を横に移動させる 東北 ○ 「天皇」を表し、右手を上にあげる 関東 ● 「上」+ 掌を上に向け水平に伸ばした左手指先に親指を立てた右手を乗せて上へ上げる。 北信越 ● 上+天皇 東海 ア 「天皇」の手話を流用し、「上」に変える。 近畿 ア 左は「天皇」の形のまま、右手は「上」を表わしながら上にあげて「天皇」の形に 中国 四国 ◎ /天皇/ を表現したのち 斜め上にあげる 九州 ○ 手話「天皇」の右手を一度、上方へ上げ、下したのち、左手で指さす。	上皇… ○ 合成 上皇后… ○保● 合成手話と保存手話の組み合わせ	各班からの提案には様々な表現が見られたが、そのうちで最も表しやすいのは、東海班の「<天皇>の手話の右手を、<上C>に変える。」 ⇒ 東海班の案「<天皇>の手話の右手を、<上C>に変える。」を採用。 ※東海班の案を採用 また、近頃新聞等に、「上皇后」も良く見られるので、合わせて検討。 → 上皇の妃という意味なので、<上皇>を表したのち、<女>とする。 ⇒ <上皇> + 左手そのまま、右手<女>
18	忖度(そんたく)	他人の心をおしはかること。推察。(例:「相手の真意を忖度する」など)	北海道 ● <目的> → <想像> 東北 △ 開いた両手で、ゆっくりと「見抜く」 関東 ● 人差指で前を指す。+「気持ち」+ 5指を折り曲げて上に向けた右手を頭の脇で少し上げる(「予想」)。 北信越 ● 予想+つかむ 東海 ○ 相手を指し、右手で「試す」 近畿 保 そうだろうと推し量る 中国 四国 ◎ 胸に手を当て、上目遣いに相手を見ながら推し量る表情 九州 ○ 右手手話「目上の人」+ 左手手話「考える」	◎ 創作手話	(最近よく話題になっている言葉であり、慎重に検討。最も時間がかかりました。) 第65回全国ろうあ者大会in福岡 研究分科会「手話言語」内の「創作手話コンテスト」の参加者から出て、人気のあった表現は、左手<秘密>+右手<勤める> → しかし、本来の意味を考えると、<勤める>ではなく、<理解する>の方が近い。 → 四国班の「胸に手を当て、上目遣いに相手を見ながら推し量る表情」が最も近い。 → しかし、これは<納得する>のようにも見える。 → 何かを推察し、何かを理解するような表現が望ましい。 ⇒ 前方に<何>を表し、分かったように小さく1回うなずく。
19	私下げ	官公庁などが、動産・不動産を民間に売り渡す。(例:「国有地を払い下げる」など)	北海道 ア <売る> 左(上から差し出す) → 右(下から引き寄せる) 東北 ア 「お金」を横中央に少し移動させたら下に降ろす 関東 ● 「省」+ 両手を揃えて前に出して握り+「売る」 北信越 ● 公+売りさばく 東海 ア 「売る」の手話を、上から下ろし、お金は下から上に。 近畿 ● 「売る」 + 「下ろす」 中国 四国 ● 持っている + 斜め下に渡す様子 九州 △ 手話「与える」を下方に向かって行う。	● 組み合わせ	最も近いのは、四国班の「持っている + 斜め下に渡す様子」 → しかし、「くれてやる」といったニュアンスにも捉えられかねない。 → 実質的には<売る>だけでいい。 → ただ、官公庁としては<売る>ということを前面に出すのは良くない。 → 「売り渡す」ようなニュアンスを入れる。 ⇒ ①<贈る(わ1-242・学I-379)>を弧を描いて同時に斜め下へ出す ②その位置から<売る>
20	口利き	談判・相談などをまとめようと、あいだをとりもつこと。仲介、調停、斡旋(あせん)。世話。また、それに慣れている人。(例:「口利き一科」就職の口利きを頼む)など)	北海道 1. ● 2. ◎ 1. <口> → <つなぐ> 2. 内緒話する様子 → 相談(顔の横で表す) 東北 ● 「口」 + 「仲人」 関東 ● 「仲介」+ 世話をする 北信越 ○ 助けてつなぐ 東海 △ 「仲介」に同じ。 近畿 ア 「お見合い」を体の横に隠すように表現 中国 四国 ● 人(左人差し指)に言う / それに引き寄せる 九州 △ 手話「仲人」	△ ラベル追加	各班からの案の中に多く見られたように、「仲介」の意味合いが強い。 ⇒ <媒介>(両手拳をくっつける)にラベル追加 ※東海班・九州班の案を採用 ※同様に、<斡旋B>も追加。 また、「紹介」の意味もある。 ⇒ <紹介>にラベル追加。 ※同様に、<斡旋C>も追加。
21	平仄を合わせる	順序やつつまを合わせること。類語として「辻合わせ」「帳合わせ」などがある。	北海道 保 両手<て>を動かしながら近づける → <合う> 東北 ○ ずれた左右の人差指先を上下に移動し、合わせる 関東 ○ 「きちんと」を左から右へ3回。 北信越 ◎ 一致して下まで合わせる 東海 ア 「合う」を右手は固定させ、左手で合わせる。 近畿 ア 「合う」の手話を無理矢理合わせる様子 中国 四国 ● ぐちゃぐちゃしている様子を段々した下げ / 一致 九州 ◎ 親指と人差し指を曲げた両手を数回ずらし、最後に合わせる	◎ 創作手話	近い意味で使われている保存手話はないか? → 大げさな表現ならあるが、通訳時などに表現するのが大変。 → やりやすいように、コンパクトにする。 → また、目的が決まっており、それ合わせる意味なので、左手は固定。 ⇒ ①指先を右に向けた左人差し指に向けて、右人差し指を前後に小さく2回ほど回転させながら近づけ ②<合う>適当・折り合いがつかう

22	パウムクーヘン	ドイツの代表的なケーキ。(木の菓子)の意。バター、砂糖、卵、小麦粉、コーンスターチなどを混ぜたものを棒に少量ずつつけて焼き、断面を木(パウム)の年輪のように何層も重ねる。	<p>北海道 ◎ 左(パウムクーヘンの形) + 右<よ>で層を表す</p> <p>東北 ア 横った左手5指の上部を右手4指で半分なでる</p> <p>関東 ◎ 丸めた両手2指を胸の前から水平に円を描きながら前に出し小指側を付ける(パウムクーヘンの形+「ケーキ」)</p> <p>北信越 ◎ 3本をドーナツの形</p> <p>東海 ◎ 両手の三本指で円を描き、食べる。</p> <p>近畿 ◎ 左手で○を作り、右の四本指で円のまわりをまわす</p> <p>中国</p> <p>四国 ◎ /木/ の幹をつまんで食べる様子</p> <p>九州 ○ 手話「ケーキ」+右手でパウムクーヘンを焼いている写像表現</p>	◎保● 創作手話と保存手話の組み合わせ	パウムクーヘンに見られる特徴として、①ケーキの層、②焼くときに回す、がある。 →このうち視覚的に分かりやすいのは、①ケーキの層。 →北海道班の案を参考に、これを右手四指で表現する。 →これだけでは分からないので、<ケーキ>も加える。 ⇒①左手で輪を作り、右手四指で弧を描くように層を表す、②<ケーキ>
23	オートファジー (Autophagy)	細胞が持っている、細胞内のタンパク質を分解するための仕組みの一つ。自食(じしょく)とも呼ばれる。(大隈良典東工大栄誉教授が、細胞自身が不要なたんぱく質を分解する仕組み「オートファジー」を分子レベルで解明したことが評価され、ノーベル生理学・医学賞を受賞した)	<p>北海道 ×</p> <p>東北 ア 「細胞」+両人差し指を上下に回す</p> <p>関東 指文字。</p> <p>北信越 ● 細胞+つかむ</p> <p>東海 ア 「細胞」の手話の後、「変える」</p> <p>近畿 ア 「細胞」のまわりを食べる様子</p> <p>中国</p> <p>四国 ◎ /細胞/ 右手が左手を食べる様子</p> <p>九州 ×</p>	◎ 創作手話	細胞を自食する作用がある。 ⇒四国班の案を参考に、①<細胞>②細胞の中を食べる表現
24	空気が読めない	その場の雰囲気には合った行動ができないことや、相手の気持ちや感情を察せずに行動すること。読み手(読者)の感情や感情を察せずに行動すること。読み手(読者)の感情や感情を察せずに行動すること。	<p>北海道 ● <様子>→<わからない></p> <p>東北 ◎ KとYを一つの形(薬指だけおろ)で「何」の動き</p> <p>関東 保 握った左手の親指側に右手人差し指を付け手前にひねりながら勢いよく右斜め前へ跳ね上げる。</p> <p>北信越 ● 空+嫌す</p> <p>東海 ● 様子+分からない</p> <p>近畿 保 困ったもんだとひたひたに手をまるめてあてる</p> <p>中国</p> <p>四国 ◎ /k/ + /Y/</p> <p>九州 指文字「K」+指文字「Y」</p>	● 組み合わせ	意味を掴んでそのまま表現すると長くなる。 →かといってそのまま<空気><読めない>もそぐわない。 →<的外れ>も案として出たが、少し違う。 →<読めない>というよりも分からない。 ⇒<空気B>+<分からないB> ※<空気B>+<分からないB>をそれぞれラベル追加
25	威信(をかける)	威厳とそれに伴う優越感。(例:「国家の威信をかける」「威信にかかわる」など)	<p>北海道 1. ● 1. 左<人>を上げ右<信じる> 2. ● 2. 左<人>を上げ右<同じ></p> <p>東北 ○ 胸をたたき、親指を上+「私」</p> <p>関東 ● 両手を開き指先を自分に向ける(注目される様子)+「信じる」</p> <p>北信越 ● 誇り+表示</p> <p>東海 ○ 誇り+信用</p> <p>近畿 ○ 「自慢」+「責任」</p> <p>中国</p> <p>四国 ア 体全体に円を描き 胸をたたき</p> <p>九州 ○ 右手で手話「威張る」+左手で手話「自信」</p>	威信 △ ラベル追加 威信をかける ● 組み合わせ	威信…<誇り>が合うかもしれない。 →ただ、<威張る>にも捉えられかねない。 →<名譽>なら、意味に合い、他の意味に取ら得られる心配が少ない。 ⇒<名譽>にラベル追加 「威信をかける」は、「威信」を前面に出す意味。 ⇒<威信>+<表明>
26	コミット(する) (commit)	「コミットメント(Commitment)」(かかわりあうこと。受けること。委託・委任など)のこと。英語をネイティブとする人々によると「約束する」「積極的に関わる」といった意味で使われることが多い。(例:「その件にはコミットしない」など)	<p>北海道 ◎ 右<C>を左肩から前に出し右<人>に近づける</p> <p>東北 ◎ 左手「C」に右手でミットの形(キャッチ)</p> <p>関東 ア 両手2指を右手を左手に近づけてつないだ輪を作る</p> <p>北信越 ア 「C」+貼る(助けるのイメージ)</p> <p>東海 ア 「関わる」の手話で、左手は固定させ、右手を動かす。</p> <p>近畿 ア 「関わる」をななめに表現</p> <p>中国</p> <p>四国 ◎ 両手で/C/ 前後に合わせる</p> <p>九州 ○ 左手指文字「コ」に右手を上方より重ねる</p>	△ ラベル追加	既存の手話で近いものはないか？ →意味から考えると、「関わる」「繋がる」 →最も適していると考えられるのは<リンク> ⇒<リンク>にラベル追加
27	特訓	「特別訓練」の略。特別にきつしく訓練すること。能力の向上のための短期間集中的に行う訓練。(例:「新入社員の特訓」「夏休みに特訓する」など)	<p>北海道 保 <特>→<練習></p> <p>東北 ● 「特別」+「訓練」</p> <p>関東 ● 「厳しい」+「訓練」</p> <p>北信越 保 特別+訓練</p> <p>東海 ● 特別+訓練</p> <p>近畿 △ 「訓練」(回数を多くする、顔の表情を強調する)</p> <p>中国</p> <p>四国 保 /練習/ を強く素早く表現する</p> <p>九州 ● 手話「厳しい」+手話「練習」</p>	● 組み合わせ	多くの班が<特別>+<訓練> ⇒<特別>+<訓練> ※東北班・北信越班・東海班の案を採用
28	テンポ(速い)(速い)	① 進み具合の速さ。早くても遅くても、どのテンポでも1拍は1拍。(例:「いつもより速いテンポで進行する」など) ② 音楽で、その楽曲に指定された速度。(テンポは楽曲を演奏する速さを表わし、リズムは音の発音タイミングや強弱によって作られるひとまとまりの音の形を表します。)	<p>北海道 保 両掌を合わせて叩く</p> <p>東北 ○ 左掌付け根と右掌指先が合うように上下に叩く</p> <p>関東 ◎ 開いた両掌を上下に打ち付ける</p> <p>北信越 ア 手を2回合わせる</p> <p>東海 両手を叩く。テンポが早い時は早めに叩き、遅い時はゆっくり叩く。</p> <p>近畿 ア 片手でだんだん前に進める</p> <p>中国</p> <p>四国 保 手拍子を打つ様子</p> <p>九州 保 両手を二回たたき、「速いテンポ」は速く。「遅いテンポ」は遅く。</p>	保 保存手話	殆どの班が手を2回たたき表現 ⇒手を2回たたき表現 ※北信越班・東北班・関東班・北信越班・東海班・四国班・九州班の案を採用
29	ぬるい	①(液体が)冷たくはないが十分な温度にも及んでいない。(例:「茶がぬるくなる」「風呂がぬるい」「ぬるいビール」など) ②処置などがきびしくない。不適当にゆるやかだ。手ぬるい。(例:「そんなぬるいやり方ではだめだ」「若者の鍛え方がぬるい」など)	<p>北海道 ①保 ①<冷める> ②△ ②<甘い></p> <p>東北 保 小指をゆっくり弧を描きながら降ろす</p> <p>関東 ア ①「ぬるい」をゆっくり動かす ②胸の前に両手2指を置きゆっくり手を開く</p> <p>北信越 ◎ バイバイを弱くして下まで流れる</p> <p>東海 △ ①「冷める」に同じ。 ②「戻らない」に同じ。</p> <p>近畿 ア 片手で「ネ」を出して、ブラブラさせる</p> <p>中国</p> <p>四国 △ /足りない/</p> <p>九州 保 右手を顔の前で、2、3回、左右に振る。</p>	保 保存手話	保存手話が色々ある。 →静岡近郊で多く使われる表現が視覚的に分かりやすい。 ⇒胸前で指先を下に向けた両手を2回ほど左右に振る ※<ぬるま湯>(<弱いB・ぬるい>+<風呂A>)も追加。
30	白身	①卵の中の黄身を包む白い部分。卵白。⇔反義語:黄身 ②魚などの白い肉。	<p>北海道 ①◎ ①<白>→卵白の形を表す ②◎ ②<白>→<刺身> ③◎ ③は切り身を表す</p> <p>東北 ○ 「白」+横った左手の外側を右人差し指で回す</p> <p>関東 ◎ 「白」+胸の前に掌を下、指先を右に向けた左手の甲を右手で撫でる</p> <p>北信越 ● A:白+卵 B:白+魚</p> <p>東海 ● ①卵+白 ②白+刺身</p> <p>近畿 ● ①「卵B」+「白」 ②「魚」+「白」</p> <p>中国</p> <p>四国 ○ /卵/ 割った時の白身の状態を示す</p> <p>九州 ○ 卵の白身・左手2指で黄身を作り、右手で手話「白」をして左手の周りに指を回す。 魚の白身・手話「白」+手話「魚」</p>	白身・黄身… ● 組み合わせ	様々な表現案があるが、いまいちっくりこない。 →卵の中の白い部分/黄色い部分、と言われれば、ほとんどの人が「白身」「黄身」のことだと分かる。 白身 ⇒<卵A>+<白> ※北信越班・東海班の案を採用 黄身 ⇒<卵A>+<黄> ※北信越班・東海班の案を採用 ※既存の標準手話<卵A>は、卵を割るしぐさだが、これとは別に、右目の前で卵を2~3回軽く握る表現もある。 ⇒<卵B>とする。
31	黄身	鳥の卵の中の、卵白に包まれる球形の黄色い部分。胚(はい)発生の際の栄養となる。卵黄(らんおう)。	<p>北海道 ◎ <黄色>→卵黄の形を表す</p> <p>東北 ○ 「黄」+「」 中ほどを「」</p> <p>関東 ◎ 「黄色」+左手2指で水平に半円を作り、その中に上から右手で2指で作った円を置く</p> <p>北信越 ● A:黄+卵 B:黄+魚</p> <p>東海 ● 卵+黄色</p> <p>近畿 ● ①「卵B」+「黄」</p> <p>中国</p> <p>四国 ○ /卵/ 割った時の黄身(○)を示す</p> <p>九州 ○ 手話「黄色」+親指と人差し指でマル。</p>	卵B… 保 保存手話	黄身 ⇒<卵A>+<黄> ※北信越班・東海班の案を採用 ※既存の標準手話<卵A>は、卵を割るしぐさだが、これとは別に、右目の前で卵を2~3回軽く握る表現もある。 ⇒<卵B>とする。